

二〇二三年九月一五日

豊類の観音像に萩の風
踏み入ればおんぶ飛蝗の放物線
六地藏います野菊の籬かな
行厨は楠のしもとの秋日影

あひる
せつ子
智恵子
たか子

二〇二三年九月一四日

石畳履きある風のしだれ萩
犬の鼻蹴つててんでに跳ぶ蝗
弓なりの竿や鱸の鰓洗
雲うつる仏足石の秋の水

あひる
素秀
豊実
なつき

二〇二三年九月一三日

秋暑し訪ねし店は休業日
爽やかに振りほどきたる束ね髪
鉄瓶に秋草生けて画家の家
手びさしに信号待ちす西日かな

みきえ
かえる
むべ
満天

二〇二三年九月一二日

パノラマに見ゆ秋航の水平線
秋の溪瀬がしら白く迸り
萩叢を籬としたる楠大樹
熊よけの鈴を鳴らしつ茸狩
観音の片頬濃ゆき秋日影

千鶴
明日香
せいじ
みきお
ぼんこ

二〇二三年九月二一日

断捨離に一日費やす秋の暮
祝砲の峰々に餅す秋祭
産まれくる子牛にと敷く今年藁

こすもす
澄子
みきお

二〇二三年九月一〇日

狛犬のだんごつ鼻に露の玉
秋澄むやスワンボートの散らばりて
古襖の唐紙がはじく秋の翳

明日香
せいじ
もとこ

二〇二三年九月九日

ほんのりと染む尼寺の酔芙蓉
ぼん菓子屋爆ぜて祭火揺れにけり

はく子
なつき

毎日句会みのる選・二〇二三年九月一七日